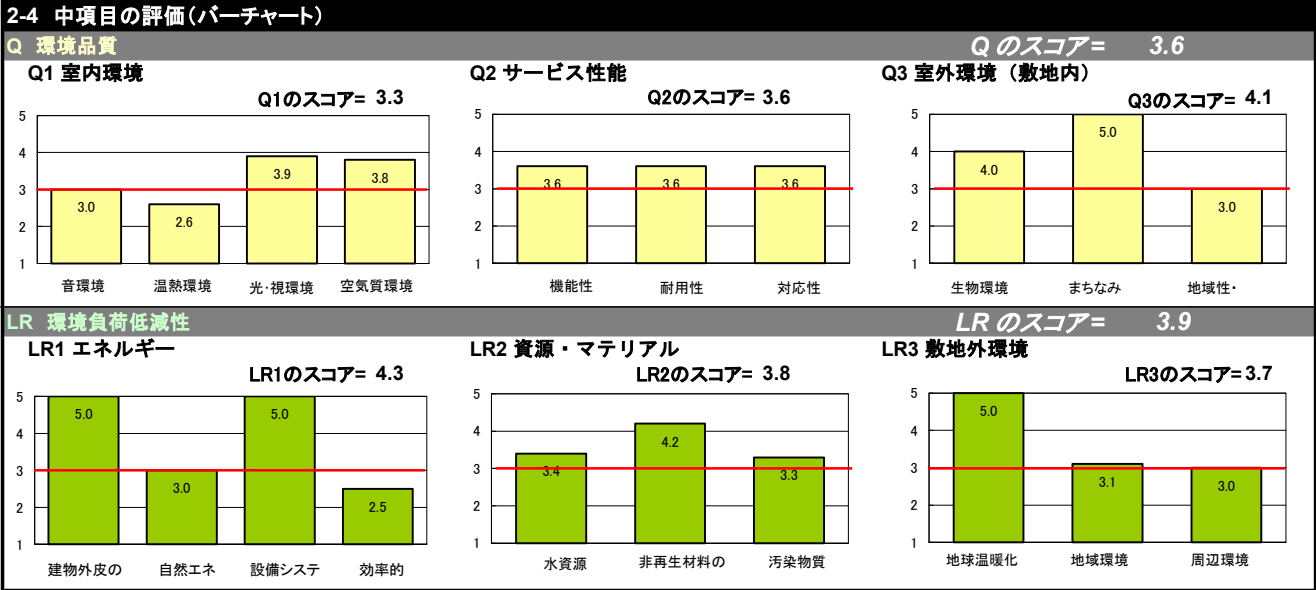
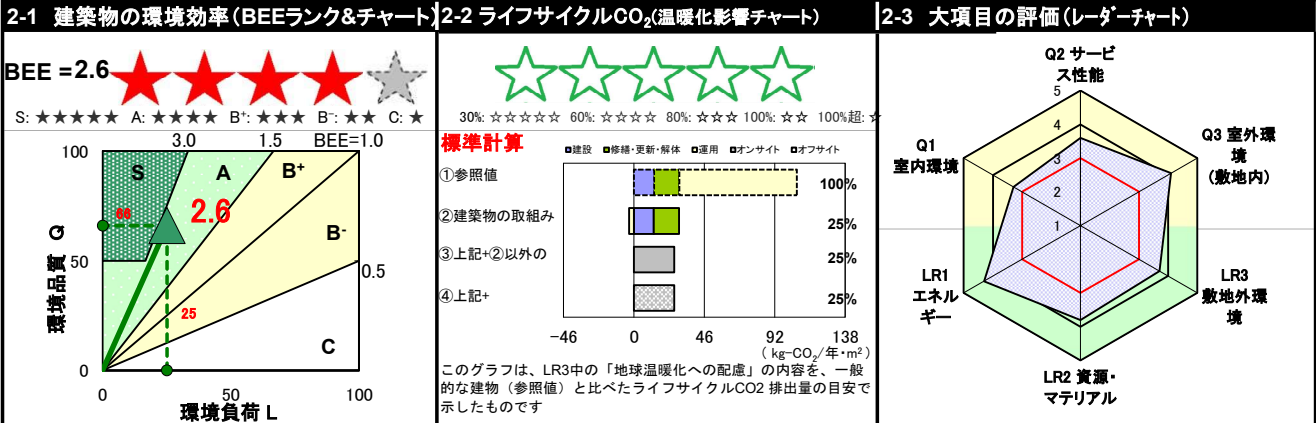


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ロボット開発イノベーションセンター	階数	地上3F
建設地	埼玉県鶴ヶ島市	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	443 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,900 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2024年8月6日
敷地面積	101,946 m ²	作成者	
建築面積	3,715 m ²	確認日	2024年8月6日
延床面積	5,163 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
中小企業をはじめとする大学や研究機関などの多様な主体が、垣根を超えて開発プロジェクトに協働で取り組める、「オープンイノベーション」な施設を計画する。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
「快適に生活できる場」でありながら、「施設のどこでもが実証試験の場」として活用できる「イノベーションリビング」を設けることで、協働して価値を生み出すための場所を創出する。	新技術の開発に伴う環境の変化に対応するため、日常的に多様な利用形態に対応できるとともに、将来の異なる利用形態も想定し、柔軟に対応が可能な「フレキシビリティ・可変性」を備えた施設を計画する。	滝島井戸と周辺の特色ある環境を継承し、グリーンインフラとして保全する計画とする。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
第3期埼玉県地球温暖化対策実行計画に温室効果ガスの削減目標に基づき、敷地の特性を最大限に活かした省エネ・創エネによって、脱炭素化に向けたZEB相当となる建物を目指す。	リサイクル資材や汚染物質を含まない建築材料を積極的に採用し、環境に配慮した計画する。	自然採光、自然通風を積極的に取り込む建物計画とし、建築設備の効率的利用に努めるとともに、排熱量を低減する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
ロボット開発イノベーションセンター(仮称)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.6
Q1 室内環境			0.40	-	-	3.3
1 音環境		3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御		2.2	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		1.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.9	0.25	-	-	3.9
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-	
1 昼光率		3.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	庇・ブラインドの2種類を組み合わせることでグレアを制御。	4.0	1.00	-	-	
3.3 照度	全館照明で500lx以上1000lx未満の照度を確保している。	4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御	無線調光タイプ照明器具によって作業単位の調整・制御が可能。	5.0	0.25	-	-	
4 空気環境		3.8	0.25	-	-	3.8
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に利用し、VOCの放散量も少ない。	5.0	1.00	-	-	
4.2 換気		2.3	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	建物内は禁煙で、喫煙スペースを外部に確保している。	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.6
1 機能性		3.6	0.40	-	-	3.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応	OA707で十分なコンセント容量、各階への通信配線スペースを確保。	4.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高2700以上で、屋外の情報を知るのに十分な窓を設置。	4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置。	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画	コンセプトに沿った内装の検討をして評価する取り組みが4つ以上。	5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.6	0.30	-	-	3.6
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁の耐用年数が約60年以上。	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	節水器具、系統の区分、受水槽の蛇口で信頼性の高い計画。	4.0	0.20	-	-	
3 電気設備	非常用発電機、電気室は2階に、電気自動車からの電源を確保。	4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高3.9m以上。	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		基準階の壁長さ比率が0.1以上0.3未満。	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		EPSを設けることで構造部材を傷めず電気配線を更新可能。	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		EPSを設けることで構造部材を傷めず通信配線を更新可能。	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出		生物環境の保全と創出に配慮し、比較的多くの取組みを行う。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺のまちなみや景観に対して、充実した取組みを行う。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.58	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.04	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマや節水型便器を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.2	0.60	-	-	4.2
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		1FLより下部(立上り部含む)高炉セメントB種	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生木デッキ・エコセメント・ビニル系床材	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		解体時におけるリサイクルを促進する対策を十分に行っている。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0.01 未満で、GWP が低い発泡剤の断熱材等を使用。	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物に対して50%以下	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		敷地内の雨水排水処理+近隣の雨水処理も計画。	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		利用者・管理者ともに利用しやすい駐輪場・駐車場の計画。	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	ロボット開発イノベーションセンター	BEE	2.6	BEEランク	★★★★
------	-------------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア											
5.0		+	3.3		=	8.3					
重点項目の各スコアの合計点											
がんばろう 6.0未満		良い 6.0以上		非常によい 6.8以上			すばらしい 8.0以上				
											

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減			スコア平均	5.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>				
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	5.0	
<配慮した内容を記述>				
(2) 緑の保全・創出			スコア平均	3.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>				
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	4.0	
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0	
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0	
<配慮した内容を記述>				

 : 入力欄